

◎景気ウォッチャー調査[2021年2月]

2021年2月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を13.6ポイント上回る46.4となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「新車購入を目的とした来客数がようやく前年の90%まで回復し、サービスを目的とした来客数を含めた全体の来客数は前年を上回っている。特に20日以降、来客数が増加し、店に活気が戻ってきている。」(乗用車販売店)、「新型コロナウイルスの感染者数が減少し、少しずつではあるが、人が街に出始めている。」(タクシー運転手)等の理由から、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を15.6ポイント上回る44.7となった。

企業動向関連は、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「鉄鋼業向け生産が回復しており、生産部門で実施している臨時休業も規模が縮小している。」(窯業・土石製品製造業)、「ここ数か月受注の回復傾向が続いている。」(鉄鋼業)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を8.8ポイント上回る50.7となった。

雇用関連は、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が減少したため、前月を10.3ポイント上回る50.0となった。

	2月	1月	前月差
合計	46.4	32.8	13.6
家計動向関連	44.7	29.1	15.6
企業動向関連	50.7	41.9	8.8
雇用関連 (参考値)	50.0	39.7	10.3

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を14.5ポイント上回る57.0となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスが終息に向かい、観光業も回復する。」(観光名所)、「ゴールデンウィークや東京オリンピックが控えているので、景気は少しずつ良くなる。」(コンビニ)等の理由から、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を14.2ポイント上回る57.5となった。

企業動向関連は、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスに対応した事業継続の仕組みが構築されつつあり、徐々に落ち着いてきているため、今後、景気はやや良くなる。」(化学工業)、「新型コロナウイルスのワクチン接種が浸透すれば、心理的な面からも良くなる。」(輸送業)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を15.4ポイント上回る54.4となった。

雇用関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「派遣などの有期雇用離れが起きており、完全回復はないが、緩やかな回復傾向は続く。」(人材派遣会社)、「新型コロナウイルスの終息を見据えて、削減していた店舗の人員数を元に戻すことに備えるといった求人計画をする企業も出てきているため、今後、景気はやや良くなる。」

(民間職業紹介機関)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を14.7ポイント上回る58.8となった。

	2月	1月	前月差
合計	57.0	42.5	14.5
家計動向関連	57.5	43.3	14.2
企業動向関連	54.4	39.0	15.4
雇用関連 (参考値)	58.8	44.1	14.7